2020年3月期 第2四半期決算説明資料

2019年11月29日 神田通信機株式会社

(証券コード:1992)



この度の台風19号により被災 された皆様に心よりお見舞い 申し上げます。 一日も早い復旧を心からお祈り 申し上げます。

目次

1. 事業の経過及びその成果

2. 対処すべき課題

3. トピックス

1. 事業の経過及びその成果

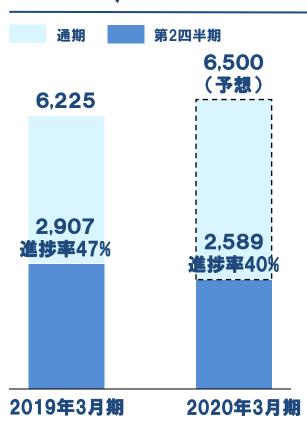
連結財務ハイライト(1)





単位:百万円

2,589 予想比△311





情報通信事業:減収(△461)(-%)

照明制御事業: 増収(+145)(223%)

不動産賃貸事業:減収(△2)(-%)

連結財務ハイライト(2)





単位:百万円





情報通信事業:増益(+3)(-%)

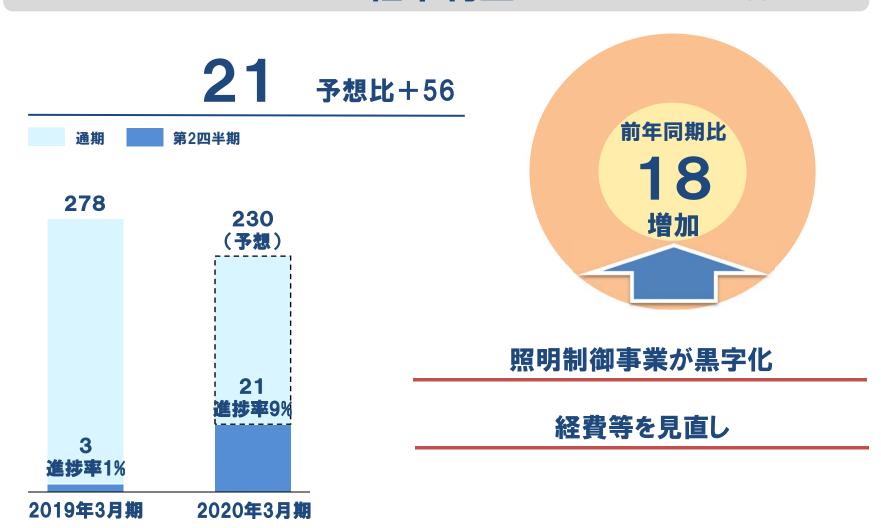
照明制御事業:增益(+25)(-%)

不動産賃貸事業:減益(△3)(-%)

連結財務ハイライト(3)



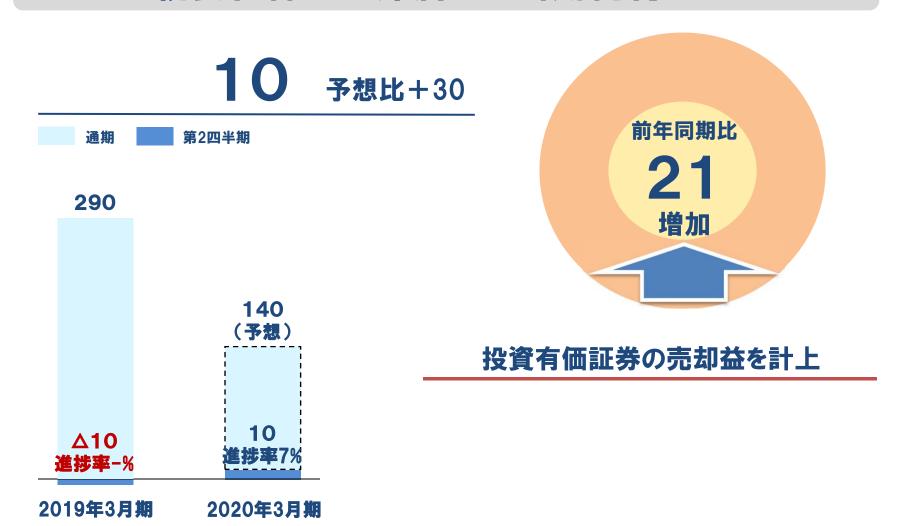




連結財務ハイライト(4)



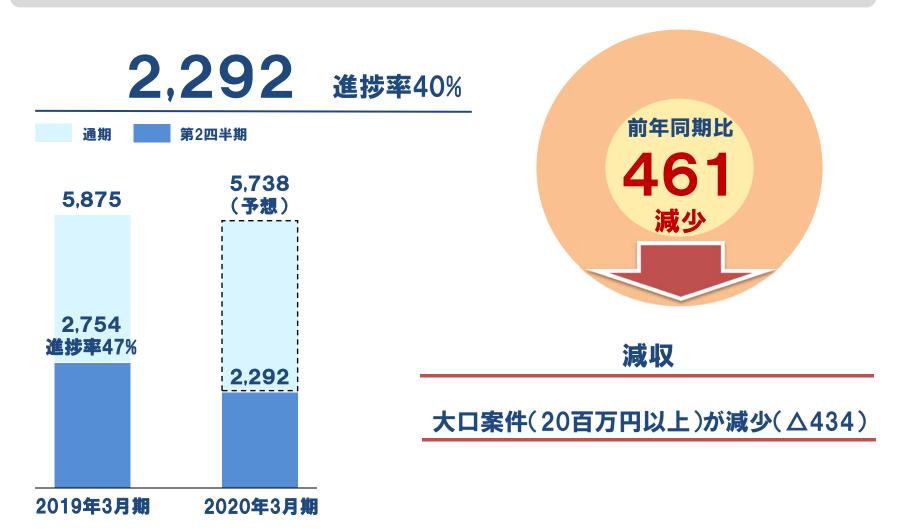
親会社株主に帰属する当期純利益



セグメント別の概況(1)



情報通信事業 売上高



セグメント別の状況(1)



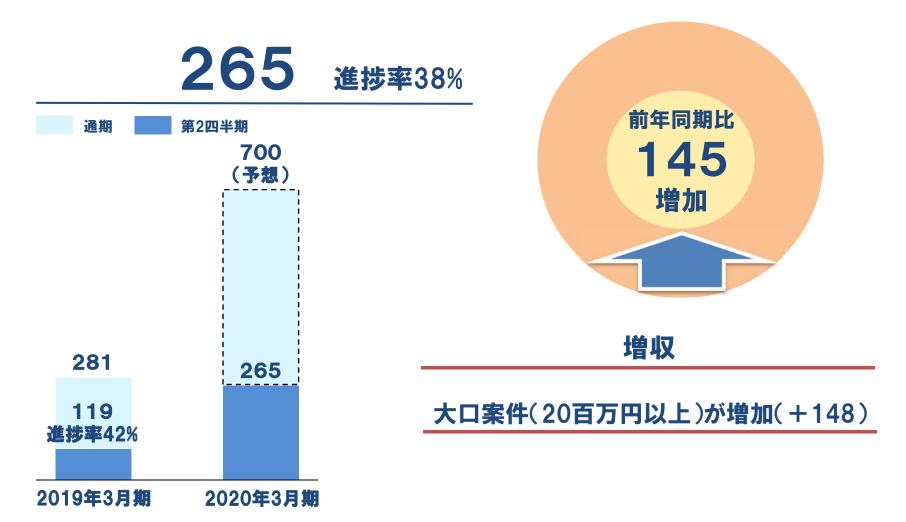
情報通信事業



セグメント別の概況(2)







セグメント別の状況(2)

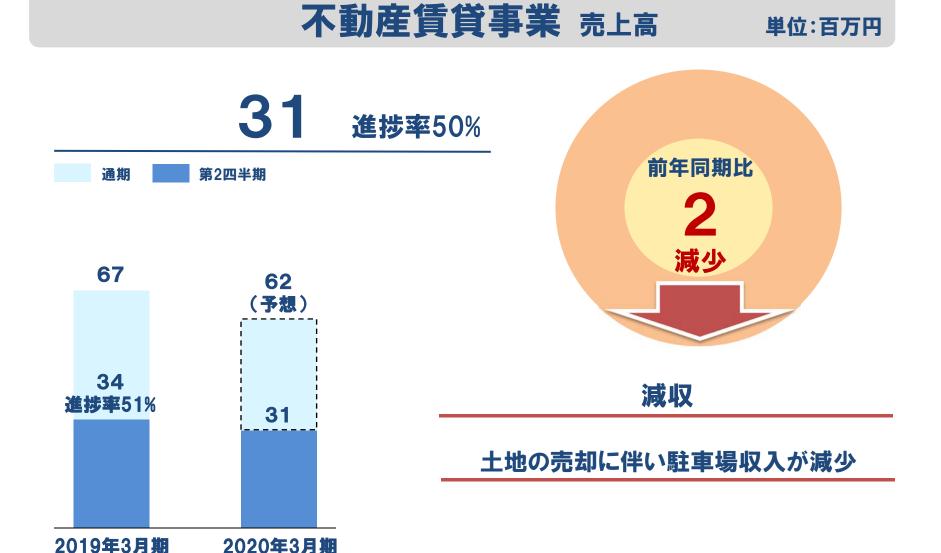


照明制御事業



セグメント別の概況(3)





連結貸借対照表



		要旨		単位:百万円
		2019年3月31日現在	2019年9月30日現在	
	流動資産	3,925	3,574	350減
	固定資産	2,885	3,019	133増
資産合計		6,811	6,593	217減
			受取手形・完成工事未収入金等の減少	
	負債	2,884	2,670	213減
	純資産	3,926	3,922	3減
負債·純資産合計		6,811	6,593	217減

支払手形・工事未払金等の減少

連結キャッシュ・フロー計算書



	単位:百万円			
	2018年4月1日~ 2018年9月30日	=	至4月1日~ 至9月30日	
営業活動によるキャッシュ・フロー	297	∆81	379減	たな卸資産の増加
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19	△5	13増	投資有価証券の売却
財務活動によるキャッシュ・フロー	△64	△71	6減	配当金支払額の増加
現金及び現金同等物の増減額	214	△158	372減	
現金及び現金同等物の期首残高	1,581	1,346	234減	
現金及び現金同等物の四半期末列	高 1,795	1,187	607減	

2. 対処すべき課題



台風19号の影響度合い

この度の台風19号により、当社の仕入先が被災し、第4四半期からの順次出荷開始を目標に 復旧作業を進めております。

現時点では未確定な部分が多く、台風被災の 影響を見極めきれず、2020年3月通期の業績 予想は据え置きます。

復旧計画の全容が判明次第、必要に応じて、速やかにお知らせいたします。

対処すべき課題(1)



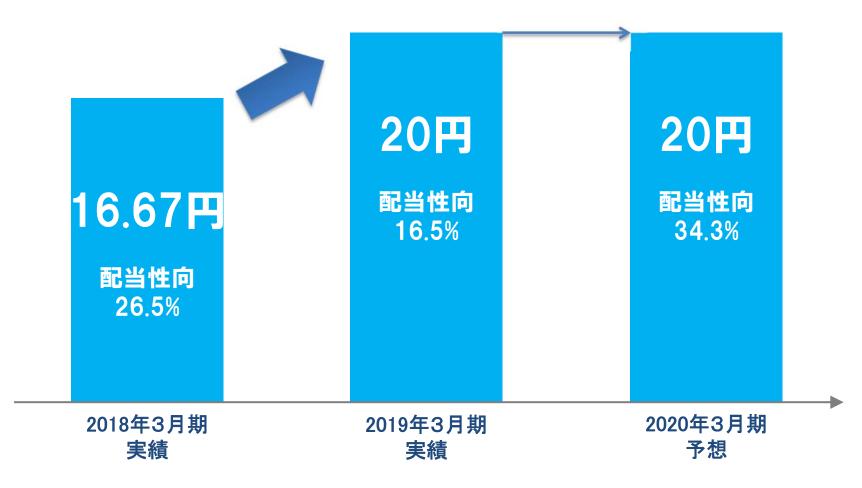
通期の業績予想

(百万円)	2018年3月期 (81期)	2019年3月期 (82期)	2020年3月期 (83期)	
(12313)	実績	実績	計画	
売上高	5,850	6,225	6,500	
(うち照明制御事業売上高)	(220)	(282)	(700)	
売上総利益	1,521	1,555	1,609	
営業利益	159	204	180	
経常利益	227	278	230	
当期利益	151	290	140	
当期利益率	2.6%	4.6%	2.1%	
ROE	4.2%	7.6%	3.6%	

対処すべき課題(1)



期末の配当予想株式分割考慮後





当社主力のPBX市場は加速度的に縮小

■【2020年予測:-10%】 市場規模半減まで 7年 *当社予測

■【2019年予測:-5.7%】市場規模半減まで12年

出典:一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会 通信機器中期需要予測

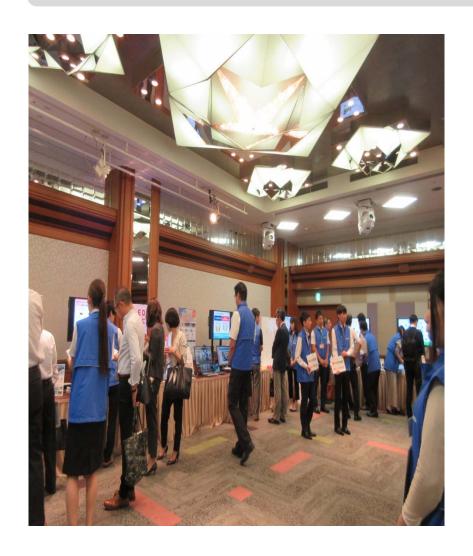
■【2018年予測:-4.1%】市場規模半減まで17年

出典:一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会 通信機器中期需要予測

対処すべき課題(2)



第26回神田フェア開催 - loT × 働き方改革 - 2019年7月25・26日 コートヤード・マリオット銀座東武ホテル





© 2019 KANDA TSUSHINKI Co., Ltd. All rights reserved. 20



情報通信事業

- 2020年3月期の取組み ー"モノ売り"から"コト売り"へー
- (1)ソリューションカの強化(継続)
- (2)マルチゲートウェイ事業の展開(新規)
- (3)既存顧客の深掘り(継続)

成果

- (1)プロジェクト推進力が向上(Sプロジェクト、Kプロジェクト、Mプロジェクト)
- (2)「脱PBX宣言」の重要性が社員へ浸透
- 反省
- (1)売上計画が未達成
- (2)ソリューション営業への転換が不十分 事業構造の変革を加速する

台風19号の影響を好機と捉え



照明制御事業

- 2020年3月期の取組み −新たな価値の創出へ−
- (1)自社優位・短納期案件の醸成・獲得(継続)
- (2)システム化案件の深掘り(新規)
- (3)組織営業の徹底(継続)

- 成果
- (1)連結売上高構成比が10%超へ(前年同期は4%)
- (2)初の黒字化達成
- 反省
- (1)売上計画が未達成
- (2)体制強化が不十分



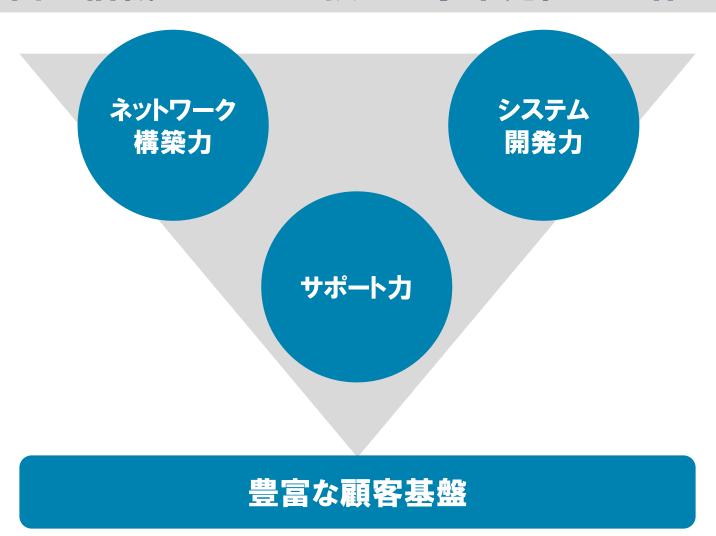
情報通信部門の人員投入と

全国展開を加速する

対処すべき課題(2)



神田通信機グループの強みを事業見直しに活かす





外部環境の変化を踏まえ、事業構造を大胆に見直す

技術の革新

当社技術力の活用

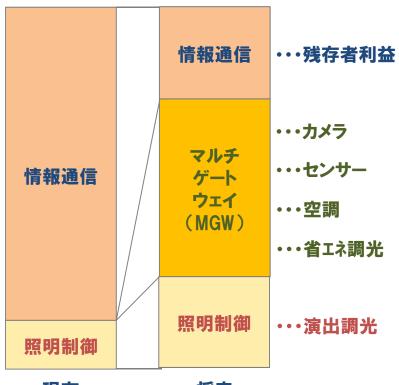
クラウド化 ≒PBX市場縮小 ネットワーク・開発 人材をシフト

業界の問題

メーカー主導の 閉鎖的なプロトコル ニューザーの使い難さ マルチ ゲートウェイ

多様な設備の 一元制御を実現

当社の事業改革の構図



現在

将来

(売上比率のイメージ)



神田通信機グループが目指す企業像



ネットワークに繋がる全ての機器を制御するエンジニアリング会社になる

対処すべき課題(3)



「健康企業宣言(2018年4月1日)」の具現化

■ 2020年3月期の取組み

有給休暇付与基準日を4月1日から10月1日へ変更(2019年10月より) 有給休暇年度は当年10月1日から翌年9月30日とする

→ 従業員の働き方改革を進め、モチベーションアップへ

3. トピックス



多様性を進め、ガバナンスを強化

取締役会・監査役会(2019年6月27日)

代表取締役社長 雅人 神部 代表取締役専務 小笹 嘉治 (昇進) 取締役 森川 幸一 (新任) 取締役 杉岡 久紀(新任) 社外取締役 啓一 前鳥 光 社外取締役 橋本 社外取締役 土生 哲也 (新任) 常勤監査役 小栗 洋三 社外監査役 大塚 有希子(新任) 社外監査役 東 志穂(新任)



株式を分割、株主優待制度を導入

■株式分割【基準日:2019年11月1日、当社普通株式1株を3株に分割】

投資単位当たりの金額を引き下げ、 より投資しやすい環境を整え、投資家層の拡大を図る

★主優待(基準日:3月31日(初回は2020年3月31日)、 当社普通株式100株以上保有されている株主へ一律QUOカード1,000円分を進呈】

当社株式の認知度と魅力を高め、 中長期的に保有していただける株主の拡大を図る



ご清聴ありがとうございました。

本資料における将来の業績等に関する記載は、現時点で入手可能情報から得られた判断に基づき作成しております。今後の実際の業績は、様々な要因の変化により記載の見通しとは異なる結果となりうることをご承知おき願います。

